

「地域が支えるバス」を考える。

バスの必要性を再認識して、バスを守り、育てるために「住民や企業がバスを支える取り組み」が広がっています。



はちのへバス便り

第4号

発行：八戸中心街ターミナルモビリティセンター

八戸市 企業による公共交通の維持！

八戸港と苫小牧港（北海道）を結ぶ「シルバーフェリー」は、八戸市民ばかりでなく、北東北地方にとつて重要な交通機関です。そのため、路線バスも、フェリーターミナルに寄り、公共交通のつながりを維持していました（H18年まで市営バス、その後南部バスが運行）。

しかし、市からの赤字補填だけでは運行がままならないほどバス利用者が減少してしまい、ついには平成21年度末で路線を廃止することとなりました。

この事態を受け、シルバーフェリーを運航している川崎近海汽船（株）と南部バスは、「フェリーに乗るまで（降りてからの交通手段（二次交通）を確保することが大切だ」という想いから、改めてバスの運行方法を検討。そして、「企業がバス事業者に運行を委託してバスを維持する」取り組みが実現し、平成22年度から「シルバーフェリーシャトルバス」が運行を開始しました。

公共交通、路線バスを守るのは誰なのか。行政、事業者、市民、そして企業。多様な主体が連携して守り・育てていくことの重要性を考えさせられる、貴重な事例です。

川崎近海汽船（株）に伺いました

Q 利用状況はいかがですか？

A 特に八戸港に到着くフェリーでシャトルバスを利用する方が多く、クルマなどで乗船していない方のうち約15%を占めています。これからもより多くの方に使ってもらいたいです!!

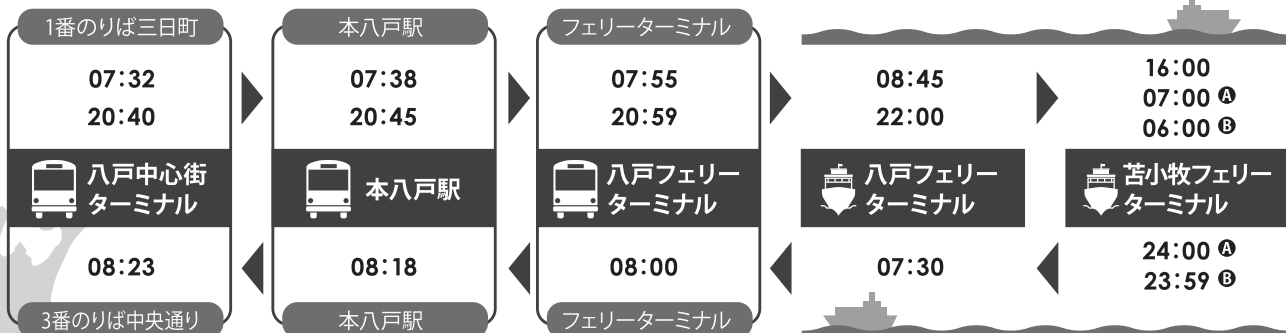


シルバーフェリーシャトルバス運行中!



[料金] 大人：300円 小児：150円

※シルバーフェリーシャトルバスは、八戸～苫小牧間のフェリー1日8便運航（4往復）の内、3便に接続しています。

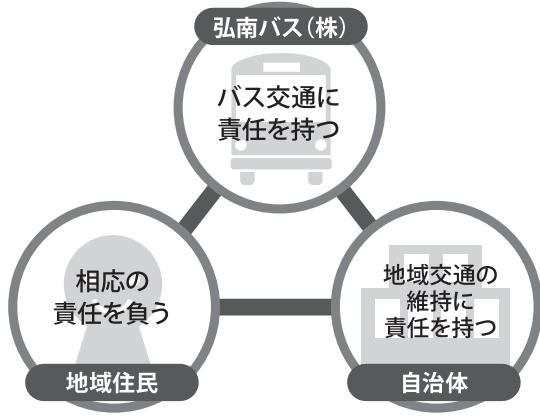


※バスは、4月1日からの時刻です。※フェリーは、A 2012年4月25日までの時刻 B 2012年4月26日からの時刻になります。

鯉ヶ沢町(青森県)

住民参加型路線バス運行中!!

「公共交通の衰退」は「地域社会の衰退」をもたららし、さらなる「公共交通・地域社会の衰退」を促す…。このような認識のもと、弘前市を中心とした津軽地域28市町では左図のように「地域住民」を巻き込んだ基本合意が定められました。



そして、鯉ヶ沢町を運行する路線バスの特定区間の運行費を「地域住民が負担する」という取り組みが実現したのです。「区内の全世帯が毎月2,000円分の回数券を購入し、赤字部分を町と事業者が負担する」という路線維持の方法は国内初のものでした。

現在でも、「地域住民、事業者、行政」が問題意識を共有し、バス利用活性化を目指すために、交流会などが続けられています。地域が支えるバスのかたち。八戸市でも、路線バス、公共交通の問題やあり方を「共有・共感」していければ、新しいバスの守り方が生まれてくるかもしれませんね。

子どもたちの未来にバスをつなごう!

市営バスの営業所で実施した「市営バス一日体験」。普段は見ることのできない、バスの整備工場の見学や運転席で格好良い制服を着ての記念撮影で子どもたちも大満足!



吹上保育園の園児を対象に南部バスとモビセンが共同で実施した「バスの乗り方教室」。バスの乗り方を歌と踊りで覚えたり、紙芝居でお勉強したり。実際にバスに乗った子どもたちの笑顔が最高です!



人々の移動がいろいろな形で支えられているまちは、人々が「安心して生活できるまち」です。

そんな素敵なまちを未来の子どもたちに残していくためにも、バスが元気に地域をつないでいくことはとても大切なことと言えます。

未来のまち、未来のバスを支える大切な子どもたち。そんな子どもたちに、小さな頃からバスに親しんでもらうための取り組みも行っていきたいと思えます。